

第3回 宇部市石炭記念館あり方検討委員会 議事録

日時：令和5年6月30日（金）14：00～15：00

場所：宇部市総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール（大）

出席者

（委員）

岡松 道雄	内田 鉄平	吉武 善幸	脇 和也
古谷 博司	柳田 英治	藤永 徹也	倉重 圭亮
福岡 俊昭	藤川 修三		

（宇部市）

観光スポーツ文化部長	富田 尚彦	同部次長	白井 幸雄
ときわ公園課長	東原 隆	同課副課長	浦田 佳宏
同課管理係長	小島健一郎	同課主任	西岡 優
同課係員	久保 綾佳	同課学芸員	廣畑 公紀

欠席者

（委員）

大塚 義雄	真宅 裕一	平井 貴大
-------	-------	-------

《第3回会議》

1 委員長による開会あいさつ

(委員長) これまでみなさまに活発なご意見をいただきました。
今回はそれを振り返ると同時に、いよいよ最終案に向けて、みなさまの意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 会議

(委員長) それでは、次第の2の議題に移りたいと思います。
説明を事務局からお願いします。

(事務局) 資料「第3回宇部市石炭記念館あり方検討委員会資料」の
「1 課題の整理」の説明を行う。

(委員) 2点ほど加えるとしたら、1点目は、レクチャースペースの必要性を加えて欲しい。
2点目は、資料を、ただ収蔵するだけではなく、きちんと整理をしていつでも検索ができるような、アーカイブ化が必要。

(委員) 「記念館へのアクセス経路の改善」について、中央駐車場から来館してくる人もいるため、導線の整備が必要である。看板案内だけでなく、アクセスそのものを見直してはどうか。
2点目は、現在、市内などに炭鉱の図面等の管理ができておらず放置されているので、それを石炭記念館に移管できないか。

(委員長) 宇部市内にある貴重な古い資料をどこが管轄し、どう保存するかということは、石炭記念館以前に宇部の歴史を調べたり、いろいろな研究材料を提供するうえでも不可欠な話だと思うので、その辺を全庁的な問題として考えていただければと思う。

(事務局) 資料「第3回宇部市石炭記念館あり方検討委員会資料」の
「2 石炭記念館の意義・目的」及び「3 石炭記念館の役割」の説明を行う。

(委員長) まず、「2 石炭記念館の意義・目的」についてご意見を伺いたい。

(委員) 今日的な意義・目的の箇所について、今は石炭がネガティブに考えられるような社会情勢だと思う。日本における石炭が果たしてきた役割・位置付け等、今の日本が産業発展したところの位置付けも意義・目的と

して挙げていいのでは。今後残しておくという意味では、もう少し未来に向けての定義付けがあったほうがいいと思う。

(委員) 「炭都うべの歴史」という言葉の使い方を見直した方がいい。まさに過去の話なので、言葉の使い方を考えた方がいいと思う。

(委員) 全国で最初に石炭記念館ができたのは宇部で、なぜ宇部が最初にできたのか、できた当初の目的も入れてもらった方が石炭記念館の価値も強くなるのではないか。

(委員) 石炭記念館がかなりハード的にも古く、イメージ的には良くはない。宇部市のシンボルであるので、ストーリー性を持った新たなものに作り替えて欲しい。

(委員) 今の石炭記念館は、石炭そのものを説明しようとしているのはわかる。使用された機械、当時の姿というものはもちろん博物館的には有意義なもの。しかし、一連の歴史的な流れの中で1番生みだされたのは人材や文化で、そういうもののストーリー性を表現して欲しい。

(委員) ストーリー性を持った形、子どもたちを惹きつけるような工夫をした中で、人材を育成していくという視点で石炭記念館の意義・目的に入れていただきたい。

(委員) 地元企業ともうまく連携してやっていけたらいいと思う。緑と花と彫刻のまちのキャッチフレーズももとをたどれば石炭がある。そのあたりもストーリーに盛り込み、展開していけたらと思う。

(委員長) 次に「3 石炭記念館の役割」についてご意見を伺いたい。

(委員) 観光の拠点としての役割についてだが、産業として歴史的にも重要なものであるため、産業観光の観点から、宇部の産業としての歴史についての文言も入れてもらおうと取り組みやすい。

(事務局) 資料「第3回宇部市石炭記念館あり方検討委員会資料」の「4 今後の取組の方向性」の説明を行う。

(委員) 石炭記念館の価値創出のところで、展望台については価値でいうと有形文化財に登録できるのではないか。

- (委員) 子どもが行ってもわかるような展示の仕方が必要。炭鉱の言葉は子どもたちにはなかなか理解できないので、どうしたら理解できるかというのを展示の中に入れる必要がある。
- (委員) アイデアはだいたい出たと思う。次の段階の話かもしれないが、それを形にすることが必要で、骨子の作成が必要。使えるお金には限りがあり、やりたいこととやれることのすり合わせが必要。まずはやりたいことを盛り込んで、実際使えるお金とすり合わせて絞り込み、仕上げていくことになると思うが、その骨子は誰が作成するのか。
- (事務局) 委員会の最終的な目標は提言書の作成。この段階で建築費用や現実的な話までは踏み込まず、こういう姿でありたいという理想的な部分を意見としてまとめていただきたい。次のステップでどう形にしていくかというところは、提言書を受けて以降、行政で実現の可能性を含めて考えていきたいと思っている。
- (委員) 今後の取組の方向性と表題があるが、どういうことに石炭記念館を活かしたい・使いたいという「活用の方向性」もあつたらいいと思う。
- (委員) 課題に教育機関との連携強化とあるが、小・中・高・大学との連携だけでなく、もっと拡大して考えて欲しい。具体的には、中央図書館や各地の図書館にある歴史関係・地域関係・石炭関係の資料とのネットワーク化など。また、宇部の近代化遺産群として、まとめて建物全体を系統化する、文化財的なネットワーク・連携も考えられると思う。
- (委員長) 1番困難なのは、情報発信による認知度向上ではないかと思う。デジタル空間を活かして石炭記念館をPRできるような機能がないと、おそらく情報発信は難しいのではないかと思うので、アピールする方法を工夫して考えていく必要がある。
- (委員) 企画展をするスペースを作って常に情報発信をするというものもあるし、グッズ販売等、稼げる仕組みが必要である。宇部市はデジタルアーカイブをやっているのだから、連携して収蔵品を3Dでみせることができる取組をしてはどうか。
- (委員) 石炭記念館とときわ公園内他施設との関連付けをした方がいいのではないか。ときわ公園全体が博物館のような概念もあるし、巨大な観光施設・教育施設・文化施設としても考えられるのではないか。

(事務局) 資料「第3回宇部市石炭記念館あり方検討委員会資料」の「5 提言書の構成(案)」の説明を行う。

(委員長) 1点気付きだが、施設としての石炭記念館の話をしているが、その周辺の石碑等も一体的に考えないといけないと思う。

(事務局) 資料「第3回宇部市石炭記念館あり方検討委員会資料」の「6 今後のスケジュール」の説明を行う。

(委員長) 以上で、第3回宇部市石炭記念館あり方検討委員会を終了いたします。事務局に進行をお返しします。

(事務局) 委員長、ありがとうございました。
それでは、第4回開催につきましては、8月下旬から9月上旬を予定しております。また、改めて日程調整等ご案内いたしますので、委員の皆様、よろしくお願いいたします。